

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670900501		
法人名	社会福祉法人 社会福祉会		
事業所名	洛和グループホーム醍醐寺		
所在地	京都府京都市伏見区醍醐伽藍町21-1		
自己評価作成日	平成26年10月26日	評価結果市町村受理日	平成27年1月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kanji=true&JigyosyoCd=2670900501-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成26年	10月	27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

以前生活していた醍醐新町とは違い建物的には家庭的であるところが少なくなった。しかし、職員の利用者に接する気持ちは変わらず温かみのあるグループホームを醍醐寺でも目指し、今職員が試行錯誤しているところである。職員も利用したいと思えるホーム作りは、そのまま引継ぎ、その人らしくあること、その人が生き生きと暮らせるように思いに寄り添うことに努め、利用者と共に毎日楽しく生活しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

醍醐新町からの移転が完了し1ユニットから2ユニットへ利用者が増えたばかりの状況の中で、利用者とともに暮らし続けるという醍醐新町の頃からの理念の方向性を大切に職員は日々の支援に努めています。利用者の出来る事を知り食事準備や掃除など積極的に関わってもらい利用者の生きがいに繋げる事で、新しい環境での生活に馴染んでもらえるようにしています。利用者の思いを聞き取り行きたい所に出かけるなどの個別の支援に引き続き力を入れると共に、新しい地域との関わりを築くために地域の方々の意見等を聞きながら取り組めることを検討したり、今までの経験の中で生かしていけることなどを職員は意見を出し合い取り組んでいます。また、本人や家族の意向に沿い医療との連携を持ち行った看取りの支援では振り返りを行い、職員は学びながらサービスの向上に繋げています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念のもとに明るい生活、地域でいきいき、健康で安心した生活をホームの理念としている。(醍醐寺に移り、理念の見直しをしている)	法人の理念をもとに作られた移転前の事業所の理念を引継ぎつつ、アンケート形式で職員の意見を聞き新たな理念づくりを検討しています。今は従前の理念を入職時に職員にはその意味や思いを伝え、ミーティングなどで確認しながら、利用者にとって我が家のような寛ぎが出来るかなど支援を振り返っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前の醍醐新町は地蔵盆や区民運動会、小学校なつまつり等に参加し、地域と交流している。また、散歩や買い物などを通し、あいさつなど行い、地域一員として生活している。今後、こちらから出来ることを検討、交流に努めていく	事業所の移転に当たって自治会長や地域住民への挨拶に行く中で心配事や不安の訴えに耳を傾け、窓からの目線や夜間の照明など受けた意見を検討し改善に取り組み、今後に向けた関係の構築に努めています。小学校の校区が従前の事業所と一緒にもあり、運動会など行事の継続が模索されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、地域の方にお話したり相談をしていく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実際などの報告や相談などご意見を聞き、サービスの向上に活かしている。	従前の事業所での運営推進会議は、事業所の現状や行事予定や報告ヒヤリハットなどの報告がなされ意見交換が行われていました。離設時の協働体制など高齢サポートからの意見やアドバイスなどもあり有意義に進められていました。家族の参加が少なくなっており、地域の方の出席も含め今後の課題となっています。	運営推進会議に際して新しい地域の方の参加に向けての働きかけや、家族の参加が得られるよう検討されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議議事録とホームの新聞を届けている。	市の担当者には、運営推進会議の議事録を利用者とともに持参しています。制度改正など必要な事があれば法人の担当者を通じて市にわからないことを聞いたり相談しています。研修その他の情報が事業所にファックスが届くことも有り、状況によっては研修等に参加したいと考えています。	運営推進会議の議事録を利用者と持参する機会を活かして、事業所の状況を直接伝え知ってもらえるよう働きかけてはいるかがでしょうか。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	洛和会全体の研修や日々のケアでも、身体拘束は行わないを基本としている。玄関は夜間のみ施錠している	毎年身体拘束についての研修があり、参加職員による伝達研修で他の職員は学び、言葉による抑制など具体的な理解に繋げています。不適切な言動が見られた場合は出来るだけその場で注意しています。玄関やフロアは日中は施錠せず、自由な動きが出来るように支援し、利用者の出たい思いには出来るだけ寄り添い同行するようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても研修があり、それを通じて学ぶ機会をもち、カンファレンスでも話し合う機会を設け見過ごされることがないように、防止に努めている。		

洛和グループホーム醍醐寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修参加や学ぶ機会を持ち、それらを活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に十分な説明を行い、理解納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の面会時に会話の中から意見を聞いたり、1年に1回アンケートをとる。玄関に意見箱を置いている。	家族の意見や要望は来訪時に聞いたり、毎年満足度調査で意見を出せる機会を作っています。家族から外出時にはおしゃれをして出かけて欲しいとの意見が出され、再度職員間で検討し衣類を見直し確認をするなど具体化しています。出された意見や要望に対してはサービスに活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の関わりの中から聞いたり、カンファレンスなどで話し合う機会を設けており、反映させている。	毎月の会議では日々の支援に対してや新しい事業所になり様々な意見が出されています。日勤帯の役割など業務改善に向けた意見には、利用者中心となるよう検討がなされ業務に反映しています。利用者の立場に立った職員アンケートは仕事への振り返り機会にもなり、また年2回の面談では個別に時間を取って意見を聞く機会となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	アンケートや自己評価表などで、職員のやりがいや状況など把握し、聞き取りの機会を持ち、向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修が充実しており、年間計画を立てて、参加できるように支援している。職員の質の向上にも配慮され、新任、現任を分けた研修や1人1人の研修記録を管理している。研修後は、伝達研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人での交流会や会議などを通じて相互訪問等行い、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族に事前にお話を聞き、安心して生活してもらえるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様、家族に事前にお話を聞き、不安なことや、要望などに耳を傾けながら、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他事業所とも連携を図り、必要としている支援を見極めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事準備や掃除洗濯など、出来る限り共に行い、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来てもらえるように声かけをしたり、毎月のお便りにお手紙を書いたり、行事への参加や受診の同行など、共に支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所への外出や、家族や友人や知人の面会や電話など、関係が途切れないように支援している。	馴染みの美容院への送迎や、ドライブを兼ねて以前住んでいた家の辺りに行ってみるなど、今迄の生活が継続できるよう思いに沿った支援を心掛けています。個別の外出では、墓参りへの支援を行ったこともあり、年賀状や手紙の住所書きなどを手伝い交友が途切れないよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席等にも配慮し、お話が聞こえにくい方の隣にスタッフが座るなどし、ひとりひとりが孤立せずに関わり合い、助け支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて本人や家族のフォローに努め、相談員を交えながら、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式や日々の関わりの中から希望や意向の把握に努め、ご本人の立場にたち、カンファレンス等行っている。	入居に当たってアセスメント用紙に家族に記載を依頼し利用者の今迄の生活や経歴、趣味などを知り、職員間で共有すると共に思いの把握に努めています。職員間で利用者毎の振り返りシートを全職員で検討し、利用者の言葉や関わりの中での気づきなど基に思いを汲み取っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族の話などを通じて、生活歴や馴染みの暮らしなどの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式や日々の関わり、介護記録などから一人一人の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス等で話し合いをしたり、本人家族から意見を聞き、現状に即したケアプランとなるように努めている。	介護計画は、事前に収集した希望記入用紙に基づいて医師や看護師、家族も含めた意見収集をもとに検討され作成されています。職員は日々支援の中で気になることがあればカンファレンスで意見を出し合い計画に反映しています。介護計画は1年ごとに見直し、見直し時には追加情報を追記し、再アセスメントを行い希望用紙による希望や意見を聞きカンファレンスを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入し変化等あれば、日々の申送りを行い、ADLの変化や急変などあれば、カンファレンスを開き、情報の共有に努め、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族に代わって通院介助や買い物、訪問美容、訪問看護、訪問歯科、訪問マッサージなど利用者の希望により利用されている。また、近隣美容院にも、希望時に行っている。		

洛和グループホーム醍醐寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通して、地域の方にお話ししたり、相談したりし情報を共有し地域の資源の把握につとめていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望があれば、専門医にかかってもらう、また往診医と協力し適切な医療が受けられるように支援している。月2回往診がある。	入居後もかかりつけ医を継続出来る事を伝え、意向に沿ってもとのかかりつけ医に引き続き受診している方もいます。月2回往診医の来訪があり、週1回の訪問看護師による健康管理が行われ、何かあれば気軽に相談したり医師への指示をもらい対応してもらえる体制を整えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護師による、健康チェックや急変時に備えて24時間体制で適切な受診や看護が受けられるように支援している。往診医との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係	グループホームと病院の相談員を通して、早期に退院が出来るように情報の共有や状態把握のために病院へ様子を見に行くことなどで、関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期の段階から、本人の意向確認や家族との話し合いをおこない、ホームでできることを十分に説明し、方針を共有することに努めている。関わるすべての方の協力を得るために話し合いを行い、チームで支援に取り組んでいる。	入居時には法人の看取り指針に沿って、状況に合わせ家族の協力があれば支援していくなど方向性を伝えていきます。前事業所では、訪問看護や医師・家族と一体となって支援した経験もあり、職員は不安感を持ちながらも医師や看護師と連携を持ち学びながら支援しています。また、経験を振り返り今後に生かしていきたいと考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習があり、全職員が対応できるように受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1度の消防訓練や年に1度の消防署との合同の訓練を行っている。地域には運営推進会議にて声かけしている。(今後声かけしていく)	避難誘導、緊急連絡網の確認、設備点検など2か月に1度テーマを定めて自主訓練を行い、年に1度は消防署の立ち合いを得て避難訓練を行って来ましたが、今後も引き続き訓練は行う計画が立てられていますが、近隣住民や地域の関わりを今後の課題としています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない声かけや対応に気をつけている。職員間で注意やアドバイスを行い、意識向上に努めている。	管理者は利用者との信頼関係を築くことが大切と職員に伝え、丁寧な声掛けを心掛けています。研修などで接遇マナーなど学ぶと共に、不適切な対応が見られた場合には出来るだけその場で注意を促しています。慣れ慣れしすぎる事は無いかなど会議で話し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりや以前の習慣を継続したり、自己決定が出来るように働きかけている。自己決定が困難な方には、家族に聞いたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースに合わせるのではなく、本人の立場にたった対応が出来るようにしている。希望に添えるように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を一緒に選んだり、お化粧を声かけしたり、マニキュアなどおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを一緒に、考え調理準備から、盛り付け、配膳を行い、食材運びなど一人一人の好みや活力となるように努めている。	食材は好みを聞いたり冷蔵庫を見たりしながらスーパーに発注し、時には利用者と足りないものを買いに出かけ、利用者の意見も聞きながら献立を決めています。炒めたり刻むなど利用者の出来る事に携わってもらいながら食事を作り、職員も一緒に食べ食事を楽しんでいます。行事食に寿司屋から出前を取ったり、ホットケーキや白玉団子を作る等おやつ作りも楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	往診医や家族と相談して食事やおやつ摂取量など、栄養バランス、水分確保に努めている。食事形態もADLに合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声かけや介助を行っており、1年に1度の無料検診や1週間に一度の訪問歯科などを利用し、清潔保持に努めている。		

洛和グループホーム醍醐寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを理解し、2から3時間の声かけや食事の声かけ、夜間の声かけ等で自立に向けた支援を行っている。	利用者毎の排泄チェック表をもとに生活パターンに合わせてトイレ誘導などの必要な支援を行い、失敗が減り紙パンツから布の下着への変化がある方もおられ、皮膚の状況改善や排泄用品の使用量が減り家族にも喜ばれています。日々の生活の中から布の下着とパッドの使用方法を工夫するなど、利用者に合わせて失敗がなくなるよう検討が重ねられています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には、食物繊維を多くとり、果物、牛乳製品などでも工夫している。毎朝10時の体操や食材を運ぶこと、買い物などを取り入れ適度な運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は、毎日入浴は可能であるが、前日に入浴できていない方を優先している。	入浴は少なくとも週2回として利用者に希望の時間帯を聞き、午前や午後、夜間の要望にも合わせるようにしています。今は日中の入浴希望がほとんどで、拒否される方には声掛けに工夫をしたり、時には銭湯を利用することもあります。柚子湯で季節湯を楽しんだり気に入ったシャンプーなど利用者に合わせて使用してもらうこともあり、毎回湯を変え気持ちよく入ってもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や状態に合わせて休息したり、安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法や用量について理解しており、副作用については、往診医や訪問看護師などから聞いたり助言や指導を受けている。服用の際は、手のひらに出し、確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活から、役割をもって生活してもらうことや、好きなことカラオケ、買い物、編み物などの楽しみや気分転換できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご自宅に帰ったり、カラオケ、喫茶店など一人一人の希望に添えるように努めている。また、行事などで、戸外に出かけられるように支援している。	利用者の希望に合わせて出来るだけ一緒に散歩に出掛け、希望の無い方には散歩を勧めたり、落ち葉掃きや外でおしゃべりをするなど外気浴を楽しんでいます。敬老会には宇治まで出かけ散策や店での買い物をするなど毎月外出行事を企画したり、個別の思いに沿って個々に出かけることも有ります。	

洛和グループホーム醍醐寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は、ホームで管理しているが、必要に応じて家族と相談しお金を持っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは、カーテンを開けると明るく光が差し込む。毎日共用空間を利用者と一緒に掃除をしている。	多くのソファを随所に配置し、気に入った場所で過ごせるようにしています。新しい建物に変わった中で、昔の大きな温度計を掛けるなど家庭的な雰囲気作りを様々に試み、利用者同士の関わりを見ながらテーブルの配置などの工夫をしています。温湿度や光の加減に留意し、少しでも新しい住まいに慣れてもらえるように努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き、ゆっくりと過ごせる空間となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や鏡台または、仏壇などを持ってきてもらい、ご自宅で使っていたそのままを使い慣れたものを活かして、居心地よく過ごせるように工夫している。	居室には使い慣れたものを持参してもらうよう家族に伝え、気に入っている椅子や本棚、鏡台などが据え付けられています。枕元に人形を飾ったり、かつて自身で作った飾り物や写真などを置き、利用者の思いに添い、安心につながる飾りつけがなされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式を通して、できることわかることの把握や日々のケアの中でアセスメントし、安全に自立した生活が送れるように工夫している。		